

タイ・カセサート大学短期研修プログラム帰国後報告書

獣医学類4年 藤田晴香

はじめに

私は、8月24日から9月6日の2週間の短期プログラムに参加しました。タイ特有のゾウや日本より盛んに行われているエキゾチック動物の診療についての学びや私自身の語学力向上を目標に参加しました。Kasetsart University(以下 KU)での実習の様子を報告いたします。

第1週目

8/24

15:00 ごろにスワンナプーム空港に到着し、P'Nho と合流しました。(P とは年上の人に使う親しみを込めた敬称です。) 車に乗って近くのショッピングモールに寄り、その中のフードコートで夜ご飯を食べました。ここで食べたパッタイは全く辛くなく美味しかったです。

8/25 ガイダンス

午前中は、アクソン先生とオンラインで自己紹介をし、ガイダンスを受けました。お昼ご飯にカオマンガイを食べました。

P'Nho がキャンパスツアーをしてくださり、翌日以降の集合場所やカフェテリアの場所を教えてくださいました。緑に溢れ、とても広いキャンパスに感動しました。

8/26 肉牛

午前中に、キャンパスから近い肉牛牧場にいきました。そこでは、カンペンセンビーフというブランド牛について学びました。この品種は純粋種ではなく、タイ在来牛と掛け合わせ、美味しさ、大きく育つことなどの特徴を学びました。その後、牧場内を案内していただき牧場のシステムを学びました。

周囲の木や竹を使って炭を作り、その副産物である木酢液を薄めて昆虫対策に使用することや、放牧地を順番に使用し、短い草にいる寄生虫は強い直射日光によって殺滅するシステムのため生体への薬物の使用を減らすことにはとても驚きました。また、糞から堆肥を作成する時にミミズを使用し、最終的にはミミズとできた堆肥どちらも製品として販売する仕組みにも驚きました。

8/27 馬

この日は、馬の実習に参加しました。とても症例が多い日で、その中から印象的であった症例を紹介いたします。

1つ目の症例は、暴れやすい性格を矯正するため、競走馬の去勢手術を見学しました。馬のような大型動物の手術のうち手術室で行うものは初めて見たのでとても面白かったです。全身麻酔

下で、青色の消毒液で術野を消毒し、心電図モニターで状態を確認していました。アリー先生が、ノートを使って手術の概要や目的など丁寧に教えてくれました。

2つ目の症例は、蹄に炎症が起きている症例でした。この日1日で、蹄に関する症例が3件ほどあったので、馬では蹄に関する疾患が起こりやすいのかなと感じました。今まで綺麗な蹄の馬しか見たことがなかったので衝撃でした。午前中に足のレントゲンを取り、蹄の状態を確認した後、午後に炎症を起こしていた部分を手術により削っていました。この手術は局所麻酔で行われていました。

8/28 エキゾチックアニマル

エキゾチックアニマルの診療を見学しました。この日は、リクガメ、オウム、ガチョウ、リス、インコ、カメレオンの診療がありました。これらの動物は日本ではあまりポピュラーではありませんが、タイではカメとトリがとても多く驚きました。

リスの症例は、前歯が伸びすぎてしまい上顎を傷つけている状態だったのでハサミで切る治療をしていました。カメの症例では、食欲が低下している状態で、レントゲン写真を撮り確認してみると、石を誤食していました。私はとても驚きましたが、カメでは珍しいことではないと教えてくれました。

8/30 8/31 自由時間

土曜日はお休みだったので、みんなでバンコクに行きました。今回の研修メンバーの友達のコンケン大学の学生と一緒にワットパクナムに行きました。日本のお寺とは異なり、カラフルなタイルやビーズでキラキラとしてとてもゴージャスでした。

カンペンセンよりもバンコクの方が一段と暑く感じました。タイの友達はみんなフレンドリーで、シャイな私にも優しく話しかけてくれ英語のスピーキングに対する苦手意識は感じずに、話すことができました。彼らが、マーケットやお店の注文を手伝ってくれ本当に助けてもらいました。



図1 肉牛牧場で見たカンペンセンビーフ



図2 左前肢の蹄が欠けている馬

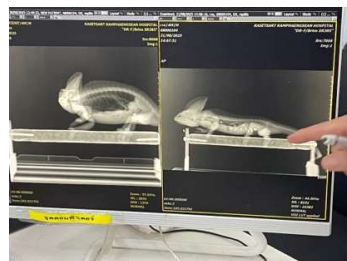


図3 何かの金属を誤食したカメレオン

第2週目

9/1 診断学

ELISA についての説明を受け、実際に豚の血清のサンプルを使って実践しました。私は生化学や生理学があまり得意ではないので少し難しく感じ、忘れてしまっていた知識もありましたが、実験をするにつれて思い出しました。サンプルを洗浄する専用の機械があることに驚きました。

その日の午後はフリータイムだったので、みんなでカフェテリアに行き昼ごはんを食べました。大学の先生方と学生以外はあまり英語が通じませんが、指さしと翻訳アプリで注文しました。特に写真を撮ると翻訳してくれる機能には2週間助けられました。また、タイの方は皆優しく、頑張って汲み取ろうとしてくれました。

8月31日に行ったキャンパス内のラーメン屋で出会った KU の学生からお薦めしてもらった KU 内にある昆虫館に行きました。これは普段の生活では行かないエリアにあったので、キャンパスサイクリングが楽しかったです。

9/2-9/4 水産学

3日間で水産学について学びました。水産学では主に魚やエビ、貝などを対象に管理方法や経済性、水質管理など幅広い点を扱いました。日本の獣医学では、魚病学や少しの生理学で扱うものの、管理などについては扱わないことが多いので知らないことが多くとても面白かったです。東京大学より、私たちと同じような2週間の短期研修に来た獣医学部の3人の先輩方と一緒に実習を受けました。

先生より、講義室で授業をしていただいた後、実際に養殖場へ見学に行きました。鑑賞魚、食用それぞれの養殖場を見学しました。魚の値段当てクイズや、卵の様子を見るなど先生が盛り上げてくださり、また今まで見たことがなかったので面白かったです。一方で、私自身は魚の相場や濾過システムなど基礎知識が全くないことを実感したので日本に帰ってから、専門的な知識以外も勉強したいと感じました。

米を育てるにあたり農薬を使わずに害虫コントロールに挑戦している団体を訪ねました。今までは農薬に強く依存しており、土壌にも浸透している状態であるが、近年の健康意識の向上や、農薬では害虫だけでなく益虫も殺してしまうことから農薬を避ける運動をしていると教わりました。ここでは米を使って培養する天然の微生物を使って、害虫対策していました。みんなで炊いた米を袋に入れて、培養の基となる液体を注射しました。水産学同様、ほとんど知識がなかったため、どの話も新鮮で面白かったです。

9/5 プレゼンテーション

9月4日にバンコクに移動し、この日は2週間の学びとタイでの生活に関する発表を行いました。英語での発表だったのでとても緊張しましたが、アクソン先生は「何が美味しかった？」などとフランクに話してくださり緊張が解けました。その後、修了証をいただきました。

午後にはバンケンキャンパス内にある動物病院を案内していただきました。病院は約3階建てで、まるで人の病院のように広く驚きました。リハビリ用の大きなプールや地下にあるがん治療室、猫専用の診察スペースなどがあり、私はあまり動物病院に行ったことがないので、日本の最先端とどれほど違いがあるのか調べてみようと思いました。

その後、骨格標本が保管されている部屋に行きました。馬や牛はもちろん、ラクダやダチョウ、ワニの標本もありました。一際大きかったのはゾウの標本で全身骨格標本が2体、頭骨が他に2つありました。博物館では見たことがありましたが、これほど近く多くの標本は見たことがありませんでした。他にも、先天異常の胎児のホルマリン標本もありました。



図4 観賞用に繁殖しているアルビノのエイ 図5 食用ティラピアの生簀 図6 米を使った害虫対策用の微生物を培養

その他

自由時間・観光

みんなでバンコクに行ったり、キャンパス内を探検したりしました。カンペンセンからバンコクまでは車で2時間近くかかるので、一度しかない週末ではあまりゆっくり観光できませんでした。バンコクに行った時に、コンケン大学の友達と一緒に、ランチを食べたり、寺院を観光したりしました。とてもフレンドリーで徒歩での移動中も楽しかったです。タイの方でも、観光で有名な寺院は暑いのであまり行かないと言っており、彼女たちもワットプラケオは初めて行くと言っていました。

私がタイに来て驚いたのは、タイの人は皆とても優しいことです。電車の駅で一つしかないトイレにみんなで並んでいたところ、職員さんが事務室のトイレを貸してくれたことがありました。彼女は英語が話せないにも関わらず話しかけてくれ、私たち6人にトイレを貸してくれました。また、カフェテリアの店員さんに辛くないでと伝えたく英語で話したものの伝わらなかったのですが、苛立ちもせず聞いてくれ最終的には雰囲気を感じ取ってくれました。

食事

カンペンセンキャンパスでは、月曜日と水曜日にキャンパス内で大きな屋外マーケットが開催されるので、KUの友達と一緒に行きました。飲み物屋や麺料理、クリスピーポーク、クレープ

などの飲食店はもちろん雑貨屋もあり、毎週1時間以上楽しみました。寿司やカットフルーツもありましたが食中毒が怖かったので買えませんでした。

実習の日の昼ごはんは、KU の先輩や実習を担当してくれた先生がお昼に誘ってくれて一緒に食べました。キャンパス内のカフェテリアやカンペンセンキャンパスに近いお店に案内してくれ、おすすめのタイ料理を教えてくださいました。その中でも、私はガパオライスとカオソーイがお気に入りになりました。No spicy でと言わないと基本的に辛い料理が出てくるので、毎回この料理は辛いのか質問していました。タイの人でも辛いのが好きではない人もいると教えてくださいましたが、日本人が想像するよりもどの料理も辛いことが多かったです。どの料理もとても美味しく、昼ごはんと夜ご飯には困りませんでした。



図7 キャンパス内のカフェテリア



図8 みんなで食べたフローズンヨーグルト



図9 ガパオライス



図10 お気に入りのカオソーイ（カレーラーメン）



図11 キャンパス内のマーケット

謝辞

酪農学園大学の教職員の皆様、Kasetsart University の教職員の皆様、実習メンバーのみんな、タイの友達、皆さんのおかげで楽しく安全に過ごし、多くのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。